

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年6月28日(2012.6.28)

【公表番号】特表2012-501968(P2012-501968A)

【公表日】平成24年1月26日(2012.1.26)

【年通号数】公開・登録公報2012-004

【出願番号】特願2011-524142(P2011-524142)

【国際特許分類】

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 35/18 (2006.01)

A 6 1 K 35/14 (2006.01)

A 6 1 K 35/28 (2006.01)

A 6 1 K 35/39 (2006.01)

A 6 1 K 35/36 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/22 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 25/30 (2006.01)

A 6 1 K 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/06 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/0787 (2010.01)

C 1 2 N 5/078 (2010.01)

C 1 2 N 5/0781 (2010.01)

C 1 2 N 5/0783 (2010.01)

C 1 2 N 5/0786 (2010.01)

C 1 2 N 5/0789 (2010.01)

【 F I 】

A 6 1 K 35/12

A 6 1 P 7/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 35/18

A 6 1 K 35/14

A 6 1 K 35/28

A 6 1 K 35/39

A 6 1 K 35/36

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 37/24

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 25/30

A 6 1 K 35/00

A 6 1 P 7/06

A 6 1 P	31/18	
A 6 1 P	35/02	
A 6 1 P	19/02	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	19/00	
A 6 1 P	31/00	
C 1 2 N	5/00	2 0 2 P
C 1 2 N	5/00	2 0 2 J
C 1 2 N	5/00	2 0 2 K
C 1 2 N	5/00	2 0 2 L
C 1 2 N	5/00	2 0 2 N
C 1 2 N	5/00	2 0 2 Q

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月7日(2012.5.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被験体における血液疾患の治療に使用するための培養造血前駆細胞であって、該培養造血前駆細胞はSTRO-1^{bright}細胞に富む細胞集団又はそれに由来する上清若しくは子孫の存在下で培養されたものであり、該STRO-1^{bright}細胞は、該被験体に投与される前に該造血前駆細胞を増殖させるために、線維芽細胞コロニー形成単位（CFU-F）を生じさせる能力を有する間葉系前駆細胞を含む間葉系前駆細胞（MPC）である、前記培養造血前駆細胞。

【請求項 2】

STRO-1^{bright}細胞に富む細胞集団が同種細胞である、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 3】

増殖造血前駆細胞がCFU-GM細胞を含む、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 4】

増殖造血前駆細胞の投与から10～30日以内に、被験体において造血再構成が起こる、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 5】

造血再構成が逆に作用する免疫応答の非存在下で起こる、請求項4に記載の培養細胞。

【請求項 6】

造血再構成を、好中球生着、血小板生着、リンホイド生着、エリスロイド生着及び／又は巨核球生着によって決定する、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 7】

造血前駆細胞の特定の造血系細胞への分化を増進する因子を被験体に投与することをさらに含む、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 8】

造血系細胞が、B細胞、T細胞、樹状細胞、単球、好中球、マクロファージ、ナチュラルキラー細胞、顆粒球、赤血球、好酸球、巨核球、血小板、骨髓細胞、脾臓細胞、真皮細胞又は間質細胞である、請求項7に記載の培養細胞。

【請求項 9】

分化を増進する因子が、幹細胞因子（SCF）、GM-CSF、M-CSF、G-CSF、MGDF、EPO、FLT3-リガンド、IL-1、IL-2、IL-3、IL-4、IL-6、IL-7、IL-11、TNF α 又はトロンボポエチンである、請求項7に記載の培養細胞。

【請求項 10】

増殖造血前駆細胞の投与が、ex vivo増殖を行っていない造血前駆細胞の投与と比べて、移植片対宿主病のリスクを低下させるものである、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 11】

血液疾患が、血小板減少症、特発性血小板減少性紫斑病（ITP）、あるいはウイルス感染、薬物乱用又は悪性腫瘍に関連する疾患からなる群より選択される血液疾患などの血小板の数及び／又は機能の疾患である、請求項1に記載の培養細胞。

【請求項 12】

血液疾患が、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、失血性貧血、クーリー貧血、ダイヤモンド・ブラックファン貧血、ファンコニー貧血、葉酸塩（葉酸）欠乏性貧血、溶血性貧血、鉄欠乏性貧血、悪性貧血、鎌状赤血球貧血、サラセミア又は真性赤血球増加症からなる群より選択される貧血症などの赤血球の数及び／又は機能の疾患である、請求項11に記載の培養細胞。

【請求項 13】

血液疾患が、AIDS、白血病、リンパ腫、ホジキンリンパ腫、などのリンパ球の数及び／又は機能の疾患、粟粒結核などの慢性感染症、ウイルス感染、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、あるいは無ガンマグロブリン血症、ディジョージ異常、ウィスコット・アルドリッチ症候群、又は血管拡張性失調症などの遺伝性障害からなる群より選択される疾患である、請求項11に記載の培養細胞。

【請求項 14】

血液疾患が放射線療法又は化学療法の結果である多系列骨髄不全の疾患である、請求項11に記載の培養細胞。

【請求項 15】

血液疾患が、骨髄線維症、急性骨髄性白血病（AML）、骨髄異形成症候群（MDS）、急性リンパ芽球性白血病（ALL）、慢性骨髄性白血病（CML）、慢性リンパ性白血病（CLL）、非ホジキンリンパ腫（NHL）、ホジキン病（HD）、多発性骨髄腫（MM）、又は骨に広がった二次性悪性腫瘍である、請求項14に記載の培養細胞。